



常務理事
横山 達伸

この2年半のコロナ禍により、和歌山県の特出生率は1・3%まで低下し、少子化が一層進行しています。がん検診の受診率は4%程度減少し今後進行がんの増加が懸念されます。利用者が大きく減少した電車やバスは経営が悪化し、便数削減に加え路線のあり方も議論されはじめようとしています。地域公共交通の縮小は確実に地域の活力低下につながります。国内旅行は回復しつつありますが、海外客が元に戻るにはまだ時間がかかりそうなので、地域経済を支える柱の一つである観光産業が活況を取り戻すのは少し先になりそうです。他にもコロナ禍による多くの負の要素がありますが、これらにより和歌山の人口減少がさらに加速化することになれば、中長期的には国保

をはじめとする和歌山の社会保険にも影響が避けられません。また今回のコロナ禍は、地域医療の重要さをあらためて認識する機会となりました。医師会はじめ医療関係者の方々や市町村の保健福祉部門の皆さまの奮闘に支えられ、和歌山県のワクチン接種は全国トップクラスの速さで進みましたし、第6波で破られたとはいえ、それまで陽性確認者の全員入院体制を堅持できたのは和歌山県だけであり、これらは和歌山が全国に誇れることであると思います。地域における医療や社会保障はどうあるべきかを考え続け、国民健康保険の被保険者をはじめとする県民の皆さまが住んで良かったと思える安全・安心な和歌山であり続けることに少しでも貢献したいと思えます。

盛夏の候、皆さま方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、この度4月1日付で、和歌山県国民健康保険団体連合会事務局長に就任いたしました。前任におかれましては、10年の永きにわたり事務局長として大変ご尽力されました。積み重ねてこられた実績を受け継いで、本会事業の健全な運営と発展のため、誠心誠意職務を果たしてまいり所存ですので、微力ではございますが何卒よろしくお願ひ申し上げます。さて、国民健康保険制度は我が国の国民皆保険の最後の砦として、重要な役割を果たしているところでありますが、少子高齢化の急速な進展や医療の高度化などにより、一人当たり医療費が増加する一方、低所得者を

多く抱え保険料(税)収入が伸び悩むなど、構造的な問題も抱えており、例年、国保財政は厳しさを増している状況であります。本会といたしましては、今後の情勢の変化に柔軟に対応していくとともに、医療費適正化を確実なものにするため、関係団体と連携を図りながら審査支払の充実や、積極的な保健事業の取り組みを継続するなど、保険者の共同体として、より一層皆さま方の負託に応えられるよう努めてまいります。今後とも、皆さま方のご指導ご鞭撻をいただきながら、取り組んでまいり所存でありますので、よろしくお願ひ申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



事務局 長
西 貢

令和4年度

和歌山県国保連合会

就任のごあいさつ